

### 第36回スポーツリレートーク

「緑のかぜを吹かせよう！！ ～ 松本山雅を支える取組について」

講師 山雅後援会 専務理事 風間 敏行 氏

2015年8月11日（火） 18時半 ～ 21時半

仙台市青葉中央市民センター 第1会議室

参加者 17名 会員11名 一般6名、ベルフィーユ・宮城県ラグビー協会他



こんばんは、私はサッカー・松本山雅 FC の後援会の専務理事をしています風間といいます。もともとは茨城県日立市の出身です。本日は途中質問もお受けしながら話していきたいと思えます。まず私達のホームスタジアムであるアルウィンの光景です。初めてのJ1、その中で仙台と対戦しホームで初勝利をあげさせていただきました。今平均観客数は約16,500名、スタジアムの最大入場者数は実質19,000人程度ですので、席の数に対する来場者数を収容率というそうですが、その収容率では全国で1番ときいています。

#### 【ボランティアについて】

2005年の北信越リーグの2部の当時の観客席の様子です。ごらんのようにまばらな観客で、運営のノウハウもなく大変苦勞していたそうです。では、さっそく「TEAM V AMOS」という私達のボランティア組織について説明したいと思います。2005年当時のボランティア登録数は20名でした。それでも年間試合数が7試合程度、観客数が平均778名というところでしたので、なんとかやっていたといえます。これが2014年にはボランティア登録者数は351人となり、ゲーム数も3倍以上、平均観客数は12,733名でした。私達は観客100名に対し、めやすとして「安心安全を確保」するため、ボランティアが1名と考えています。これが昨年まではなんとか確保できているのです。今年はJ1に昇格しましたが、現時点で359名と昨年を上回る登録をいただいています。

登録者の年齢構成ですが、高校生から上は75歳まで登録いただき中心は30代、次いで40代、20代と比較的若い世代が多いのが特徴でしょうか。平均年齢は39歳で、非常にアットホームな雰囲気、ご夫婦での参加、親子、兄弟での参加も増えています。

居住地では、ホームとしている松本が57%、塩尻が14%、安曇野が10%と中心で

すが、県外からの4%というものも特徴です。これは松本に住んでいて県外に引っ越し、それでもゲームに合わせて活動にきてくださる方が多いようです。

#### 【TEAM VAMOSのあゆみ】

TEAM VAMOSのモットーは「安心・安全・快適なスタジアムづくり」と「また来たくなるスタジアムの雰囲気づくり」です。そのチーム・バモスのあゆみについてお話しします。

#### 「クラブを支えること」からはじまる

2004年当時チームのサポーターは、多くても10名ほどでしたが、そのメンバーがその後ライターやVAMOSの代表などとなり中心的な役割をはたしてきました。最初はNPO法人アルウィンスポーツプロジェクトが発足、Jリーグ加盟をめざしてファンクラブ会員制度作りをNPOの正会員有志が依頼されました。そのファンクラブの名称が「VAMOS会員」であり、有志たちがそのまま翌年からのホームゲーム運営を担ったことから、現在のボランティアを「TEAM VAMOS」と名付けたのです。当初はグッズ販売から駐車場の誘導、放送にゲームイベントまでできることはなんでもやりました。(2005年 北信越2部 優勝)

#### 「クラブのためなら、なんでもやる」

私自身は2007年から、かつて所属していた青年会議所時代の関係で、ボランティアのメンバーから組織作りの相談があり関わるようになりました。観客数の増加に合わせてボランティアの組織化に取り組み、ボランティアマネージャーの制度を導入したり、当時としては大きな話題となった長野パルセイロとの信州ダービーで6,399人という過去最高の観客数を記録し、路上駐車などの問題が噴出したことで、クラブも本格的にゲームの運営について考えだした時期でした。

わかりやすい数字での目標を決める事もこのころから始めたものです。

#### 「バモスは、お客様のためにある」

2008年から地域リーグではありましたが、入場料をとることになりました。クラブでやるべき事は徐々にクラブに移管し、ボランティアはお客様をおもてなしする事に特化させようとなりました。その為、研修会を初めて実施したり、DJのプロ化やイベントの充実にも取り組みました。普通救命講習会も初めて実施し、以後毎年少なくとも1回は継続開催しています。

2009年シーズン前には、SV2004の泉田さんを講師にお招きして研修会を開催しました、その時からの縁で今こうしてお話させていただいてます。またこの年は将来のためにナイトゲームを経験したり、天皇杯で浦和レッズを破り全国的にも注目され、アルウィンでの地域リーグの決勝大会でJFL昇格を決めました。

#### 「目線は常に、上のステージへ」

JFLでの初年度となった2010年には、ゲーム数が17ゲームとそれまでの倍以上

に増えたことで、ボランティアの拡大に取り組み、最終的には116名の登録まで増やすことができました。それに合わせてイベントの充実や、マンネリ化を防止するため、サッカー以外のヒルクライム（自転車）などのスポーツイベントのボランティア活動も始めました。また、ポロシャツなどのユニフォームもこの年から導入しました。そして、2010年秋には、山雅後援会が発足、翌2011年からボランティア組織は自立のためクラブではなく、後援会の下部組織となりましたし、財力の充実のため支援持株会も誕生しました。イベントの企画運営はクラブにシフトし、ツイッターなどの情報発信がスタートしたのもこの時期で、JFLでの成績は4位でしたが、J2昇格を決めることができました。

2012年のJ2一年目、ゲーム数は21ゲームと活動当初の3倍に増加、ボランティアの登録者数も196名まで増えたことで、スムーズな運営のためリーダー制を導入することになりました。また、2013年には組織改革に取り組み、あらたに試合開始前までのBe-VAMOSというボランティアや、ごみの分別回収を担当するEco-VAMOSの仕組みが生まれました。このEco-VAMOSは市内の障害者就労支援作業所の方々と連携し、障害をお持ちの方の社会参加のひとつとして定着してきています。また、リーダー制度を進化させ、ボランティアのためのボランティアとして、「VAMO-Support」という制度を立ちあげました。自転車の一枚のホイールのようにそれぞれの担当が連携し、現在はうまく運営されていると思います。

企業の黄金比率として、2:4:4ということがいわれます。これをVAMOSに当てはめると、理想的にはゼネラルとして全体をみることができる人が2割、スペシャリストとして継続的にリーダーなどの役割を果たせる人が4割、そして毎年入れ替わる新人や、さほど活動への意欲をもっていない方が4割ということになります。こうした人材をリスト化し、現在では7割を超える継続率を踏まえて上手にさまざまな方法で、人を育てていきたいと思っています。

#### 【山雅後援会について】

松本山雅というクラブを物心両面からサポートする目的で2010年に設立された後援会は、2014年度は法人146社、個人544人、サポートショップ223店という構成で、おかげさまで今年も増加しています。具体的には支援金として昨年は350万を拠出、ホームタウンを持ち回りで「松本ホームタウンサミット」というイベントも開催しています。また、地域社会への貢献と発展に関する事業として、「Yell事業」を実施しています。

これは、後援会が中心となり、クラブ、エコサプライヤー、障害者のネットワークをつなぎ、古紙や新聞雑誌をホームゲームの会場や、市内のステーションにお持ちいただき、その販売料金で、会場内のごみ処理料をねん出したり、一定の手数料を分別をサポートしていただいている障害者の皆さまに還元しています。約2年取組、2014年は1932t、380万円の協力金収入を記録しました。また、同様に地域貢献のひとつとして、ホ

ームゲームの会場で配布するチラシを、スポンサーから一定金額をいただき、封入を障害者施設に委託したいへん喜ばれています。これも増加傾向にあることから、障害者施設の収入引き上げにつなげていきたいと思います。このほか、「Green&Clean作戦」と題して、ゲーム終了後に子供たちが観客席のごみの回収を手伝うという取り組みもあり、定着してきています。今後も日本一安心安全で快適なスタジアムをめざして、取り組みをすすめていきます。

#### 【質疑】

・救命講習への参加状況は

～ 毎回30人から40人程度だが、大切なことなので継続していきたい、また、こうした取り組みを消防から認められ表彰も受ける予定（9/9表彰式）

・ボランティアの自主運営の予算や収入、使い道は

～ 年間800万円でクラブから後援会が受託し、弁当代としてボランティア参加の都度1,000円を渡し、他にユニフォームやID、消耗品や研修費、会議費などに活用している。現在はフルで活動するVAMOSボランティアには2,000円、試合前までのBe-VAMOSボランティアに1,000円が支給されている。いずれはクラブからの委託費がなくても、後援会の事業として自立して運営できることが目標となっている。

・何故、順調に観客が増えているのか

～ 山雅が誕生するまで、地域として応援できるものが（特にプロスポーツ）他になかったことが大きい。

・若い人が多い理由は

～ 活動を始めた当初は20代の男女ばかりだった、また信州大学1年生がゼミの授業の一環として毎年20～30名登録して活動をしている。授業が終わっても2年生から個人登録する人も徐々に増えてきている。

・ボランティアの参加回数は

～ 参加の回数を引き上げる為「月一バモス」ということを提唱している。結果平均は一人6ゲーム、月一バモスの達成者は約120名（2014年）にもなっている。

文責 泉田 和雄